



新学期が始まってから2か月が立ちました。地域の小中学校では、学校行事や中総体とこれまで忙しい毎日をお過ごしたと思います。学級の子どもたちも、新しい環境に慣れて緊張がほども、それぞれの個性が垣間見えてきている時期ではないでしょうか？ 担任の先生方の中には、「あれ？」「どうして？」等、学級の中で子どもの気になる姿が見えてきているかもしれませんね。

～ 行動には訳がある ～

なぜ問題行動は繰り返されるのか？

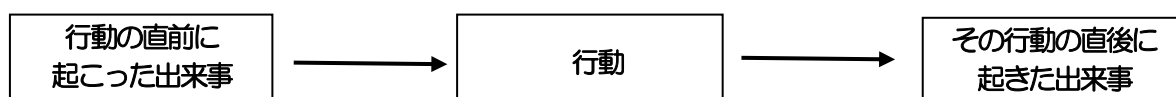
太郎君は、自分の思い通りにならないと大声を出して自分の思い通りにしようとします。担任は、太郎君に大声を出してはいけないこと、我慢しなければならないことを言い聞かせ注意をしますが、何度も繰り返してしまいます。

「行動」をするには、その前に「先行事象」があり、行動をとった後には、「後続事象（結果）」が起こります。このことを**三項随伴性**（応用行動分析学）といいます。

A（先行事象）

B（行動）

C（後続事象）



本人にとって何らかのメリットが
得られる（強化の原理）

行動が繰り返
される要因

		行動の直後に起きた事象（C）	
		何かが与えられる（正）	何かが取り除かれる（負）
その後の行動の起こり具合（B）	増えた（強化）	正の強化	負の強化
	減った（弱体化）	正の弱体化	負の弱体化

太郎君の場合…

A（先行事象）

B（行動）

C（後続事象）



何らかのメリットが得られる
（強化の原理）

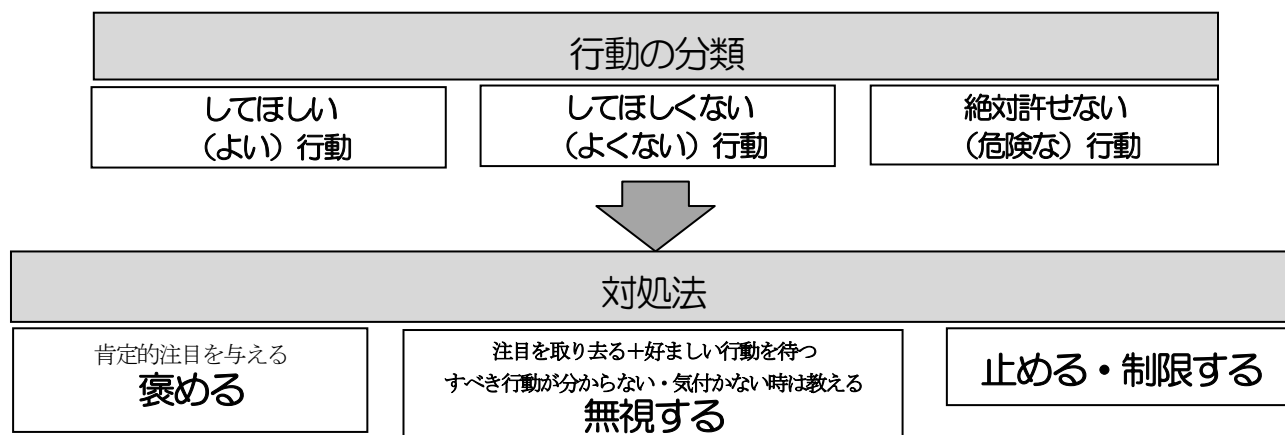
行動が繰り返
される要因

太郎君は、自分の思いが通らない時にどう行動するのかを学べておらず（**未学習**）、自分の思いを通そうと大声を出してしまいました。すると、周囲の友だちや大人が仕方ないと太郎君の要求を認め、太郎君は自分の思いを通せるようになり、その結果、思いが通らない時には、大声を出せばよいのだということを学んでしまっています。（**誤学習**）この場合は、大声を出してはいけないことを言い聞かせて注意をただけでは問題となる行動は改善されません。自分の思いが通らない時にどのような行動すればよいか方法を教えることが必要です。

適切な行動ができていないのは、未学習や誤学習によるものです。子どもの努力不足や保護者のしつけのせいではありません。状況に応じた適切な行動を子どもが身に付けていなければ（未学習）教え、足りなければ補いましょう。また、状況に合わない気になる行動が、間違っただけで学んでいる行動（誤学習）であれば修正しながら正しい行動を教えることが必要です。

行動の分類と対処方法

行動（目に見えるもの 数えられるもの）を「してほしい行動」「してほしくない行動」「絶対許せない行動」の3つに分けます。それぞれの行動に応じた方法で対処します。



無視の方法

- ・「無視」とは、子どもが行なうよくない行動に注目しないこと
※よい行動が出て褒められるまで待つ時間
- ・必ず「無視」と「褒める」をセットで行う
※子どもがよくない行動をやめるか、よい行動を始めたたらすぐに褒める
- ・大声を出したり、怒りを見せたり、舌打ち、ため息をつく等の行動は、否定的な注目を与えることになるので絶対にしない!

無視することは、望ましくない行動を放任することではありません。よい行動ができるまで待つ時間です。



無視の対応で起こる 反応バースト

これまで強化されてきた経験の消去により、一時的に不適切行動の頻度が増大します。子どもが、これまで得られていたメリットがなくなってしまったことに混乱した状態です。一時的に状態が悪化したように感じられますが、必ず改善に向かいます。根負けしてしまい、注目をしてしまうと問題行動はさらに増大します。子どもの成長する力を信じて、根負けせずに、「無視」の対応を行いましょう。

褒め方のコツ!

○ポイント

- ・子どものそばで、視線を合わせて褒める
- ・してほしい行動を始めた時に、している最中に、できるだけ早く褒める
- ・好ましい行動を言葉にして、短く褒める

○褒めるのいろいろ

- ・褒める「靴を履いているんだね。えらいね。」
- ・励ます「もう少しではけるよ。がんばれ。」
- ・感謝する「ひとりではいてくれてありがとう」
- ・興味を示す「青色の靴かっこいいね」
- ・気付いていることを知らせる
- ・ほほ笑む「靴を履いているんだね」
- ・抱きしめる

○25%ルール

- *課題がパーフェクトにできなくても、ほんの少しでもできていることを見つけて褒める。

<着替えの場面では…>

- ・運動着を取りに行く→取りに行ったら
- ・ズボンを脱ぐ→脱げたら
- ・運動着(下衣)→はいたら

効果的な指示

※指示とは、やるべき行動の内容を伝えることです!

禁止やお説教ではありません。

「××してはいけません」→「〇〇をします」

C	Calm	穏やかな気持ちで
C	Close	もう少し近づいて
Q	Quiet	静かな声で

※直ぐに指示に従えるとは限りません。2~3回指示を繰り返す必要があるある時は、CCQを心掛けましょう。

返す必要があるある時は、CCQを心掛けましょう。

予告 気持ちの準備ができます

「あと3回したら、片付けよう」

選択

自分で決められていい気分

「のりを片づける?はさみを片付ける?」

~したら~できる

「片付けしたら〇〇できるよ」

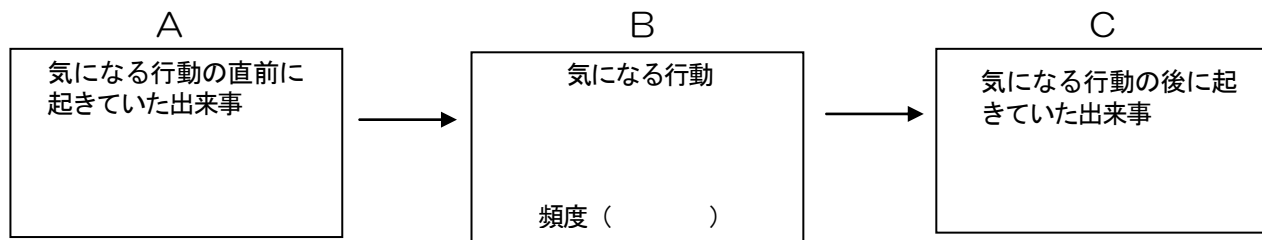
他の子の力を利用する

うまくできている子を褒めます 「〇〇ちゃん片付けえらいね」
他の子も始めたらその子も褒めます 「〇〇君も片付け上手ね」

「褒めること」と「おだてること」は異なります。子どもが容易くできることを大げさに褒めても効果はありません。「取り組んだことを認めているよ」、「あなたを気に掛けているよ」と言葉だけでなく、表情や行動で子どもに伝えましょう。アイコンタクトは「目の抱っこ」とも言われています。

どう対処するか？

👉 「気になる行動」の直前、直後にどのようなことが起きているかを具体的に書き出してみます。



👉 何を指導対象とするか「ターゲット行動」を決めます。

- ① ターゲット行動になりそうな行動を列挙し、優先順位をつける。
- ② ターゲット行動を1つに絞り込む

以下の観点から検討を！

- ① 支援者にとって実行可能であること
- ② 子どもにとって負担が少ないこと
- ③ 子どもの人生を豊かにすること
- ④ 周りの人の人生を豊かにすること

※①～⑥の順で記入

自分が一番指導したい行動から順位付け②	気になる行動の具体的な内容①	ターゲットにできそうな行動(課題)③	自分はそれに取り組めそうか？(実行可能性)④	子どもにとっての負担度(すぐに好子がもらえそうか?)⑤	最終的な優先順位⑥

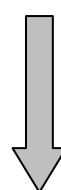
👉 記録用紙を作る・記録方法を決める

【記録の方法のいろいろ】

- ・正誤(できたか、できなかったか)
- ・回数(何回できたか)
- ・比率(一定時間の中で何回できたか)
- ・持続時間(何分、持続してできたか)
- ・潜時(行動を始めるきっかけを示してから、実際の行動開始までの時間)
- ・状況(行動の直前、直後の状況、具体的にはいつ、誰と一緒にいる時、どこで、その行動が起きたか、行動が起きた後にどうなったかなど)

記録を取る際は…

- ① ベースラインの記録を取る。(指導の前の状況)
- ② 指導を行った時期の記録をとる。(指導の効果)



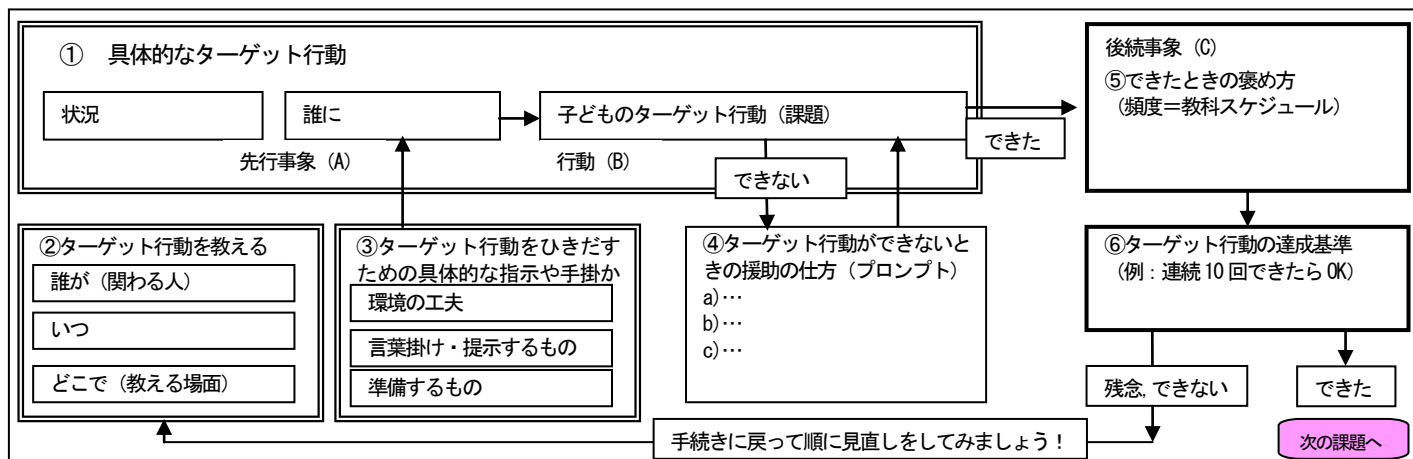
【記録を取ることのメリット！】

1. 事実が分かる＝子どもの実態が把握できる(進歩しているのか、いないのか)
2. 関わる大人の側で共通理解が得られる
3. 指導の方法が有効か否かが判断できる
4. 指導方法を子どもに合わせたものにアレンジするための基礎データが得られる



指導の手続きを考える……下記の順番で書き表してみましょう。

- ① 具体的なターゲット行動
- ② ターゲット行動を教える場面(誰が、いつ、どこで)
- ③ ターゲット行動を引き出すための具体的な指示や手がかり
- ④ ターゲット行動ができない時の援助の仕方(プロンプト)
- ⑤ できた時の褒め方
- ⑥ ターゲット行動の達成



参考・引用図書：

子どもの発達障害と支援のしかたが分かる本 日本実業出版社 「気づき」からの支援スタートブック明治図書
 保育士・教師のためのティーチャーズトレーニング 中央法規 子育てに活かすABAハンドブック 日本文化科学社
 明治図書リーフレット「子どもたちに肯定的な注目を」 心身障害児総合医療療育センター

～ 研修会等についてのお知らせ ～

— 古川支援学校公開講座 — ほっと相談夏季研修会

○日 程：8月3日（金） 13：40～15：45

○会 場：大崎合同庁舎 大会議室

○対 象：地域の小学校、中学校、中等教育学校、高等学校の教職員
本校職員 （専門性向上研修を地域に公開）

○テーマ：「発達につまずきのある子どもを支える支援」

○講 師：仙台白百合女子大学 人間発達学科 教授 氏家 靖浩氏

※詳細は、別紙（ご案内リーフレット）をご覧ください。

※参加を希望される方は、7月13日（金）までに、FAXまたは電話にてお申し込みをお願いします。



インクルーシブ教育理解研修会

宮城県の特別支援教育の充実と体制整備に向けて、インクルーシブ教育を推進するために不可欠な合理的配慮の理解と推進を目的に、県内3会場（北部・中央・南部）にて研修会を開催

○主催：宮城県教育庁特別支援教育課

○対象：障害のある幼児児童生徒に関わる関係者

（保育士、保健師、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援教育の教員等、
教育事務所及び市町村教育委員会担当者、福祉施設等の関係者）

*内容は、一般向けではなく、指導者に向けた内容

お申し込みは、
各市町教育委員会へ

○テーマ・日程・会場

前期：テーマ「合理的配慮の提供と実際」10：00～15：00（受付9：30～）

開催ブロック	開催日	会場	講師	事務局校
北部ブロック	7月27日（金）	南三陸総合体育館 バイサイドアリーナ	東北大学大学院 教授 野口和人 氏	気仙沼支援学校
中央ブロック	8月 6日（月）	光明支援学校 （小学部校舎）	宮城教育大学 准教授 植木田 潤 氏	光明支援学校
南部ブロック	7月31日（火）	大河原教育事務所	東北大学大学院 教授 本郷一夫 氏	岩沼高等学園

後期：テーマ「ユニバーサルデザインの視点による授業づくり」14：00～16：30（受付13：30～）

開催ブロック	開催日	会場	講師	事務局校
北部ブロック	10月22日（月）	迫合同庁舎	宮城学院女子大学 教授 梅田 真理 氏	気仙沼支援学校
中央ブロック	10月16日（火）	光明支援学校 （小学部校舎）	星槎大学大学院 准教授 阿部利彦 氏	光明支援学校
南部ブロック	10月 5日（金）	大河原教育事務所	杉並区済美教育センター 指導教授 月森久江 氏	岩沼高等学園